

### 永遠の三角形

(日本超音波医学会第84回学術集会会長挨拶)



学会とは何のためにあるのでしょうか？いくら仕事熱心な人でもただ黙々と毎日自分の仕事場で仕事をしているだけでは、小さな殻に閉じこもってしまいます。そんなときに他人の意見を聞いてみると驚くほど新鮮に響くことは誰しも経験があるでしょう。つまり、学会とは1人で考えたり悩んだりしないで、同好の士を集めて、みんなで意見を交換し、議論し、考え合おうという同好会です。「議論」の場です。少なくとも出発点はそうであったはずで

日本超音波医学会の素晴らしさは、医、工、技の3者の連携です。言葉で言えば簡単ですが、この3者の連携を維持し深めるにはいろんな苦労があったと拝察します。超音波装置という診療の道具を、作る人、実際に使いこなす人、患者さんのために役立つ人、この3者が連携して議論することが本学会の一番の存在意義であることを象徴して、今回のテーマは「永遠の三角形」としました。新たに超音波を志す若い人を歓迎する意味で、学生会員の参加費は無料とします。非会員学生の参加費は5000円ですが、日超医への入会金は1000円、年会費は3500円ですから、本学会に入会していただきたいという気持ちです。

会長は名誉職ではなく、その役目は会員みなさんに活発に議論する場を提供することです。また、超音波医学の進む方法を指し示すことも許されていると考えます。会員の自由な問題提起が一般演題で、会長が方向付けをしてテーマを指定するのが(会長)指定演題です。後者は、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、ラウンドテーブルディスカッションなどといういろいろな形態がありますが、残念なことにこれらの形態の違いは混乱し不明確となっています。そこで、今回はすべて指定演題企画(総合討論つき、または総合討論なし)という日本語で表記します。余談ですが、議論の場である学会の大きな妨げになっているのは外国語で、日本人が英語を使って議論することほど非効率かつ気恥ずかしいことはありません。よって、今回はやむを得ない場合を除いてなるべく外国語は使用しないようにします。スライドは日本語が原則で、企画の名称もランチョン=お昼の勉強会、キーノートレクチャ=基調講演、ファイアサイドトーク=タベの意見交換会といった具合です。5月にはどこの暖炉にも火がないのになぜファイアサイドトークと呼ぶのでしょうか

か・・・？

超音波医学の各領域で話題の焦点がありますが、循環器医としても組織の硬さの評価はとても興味があります。特に、心臓は収縮期に硬くなり拡張期に柔らかくなる臓器で、もし硬さが計測可能となれば、非常に重要な心機能指標となることは間違いありません。また、硬さ=〔外力/歪み〕ですが、超音波で外力や圧力を計測することは難しく、むしろ硬さと歪みを計測できれば自然と外力（圧力）も推定できるであろうという淡い期待があります。すぐには叶わない夢ですが、大きな夢です。この夢の実現のためには、まずは動かない臓器で硬さの評価法が練り上げられる必要があります。

もうひとつ、専門医制度委員会委員長の立場を経て再び理事長になられた千田彰一理事長により、本学会の専門医制度はさらに充実する予感があります。この予感も企画に反映するつもりです。

尊敬する大阪府立北野高校の先輩である別府慎太郎先生の方法を踏襲し、原則として外国人は呼ばずに「日本人の日本人による日本人のための議論」の場とします。外国の様子を知らせていただくために、外国で活躍する、あるいは活躍してきた日本人の先生にご講演を頂くことも別府方式の踏襲です。

たくさんの会員に参加していただきたいので、ポスター発表をなくすわけにはいきませんが、あの狭いスペースに10名か20名が立ったまま前の人の肩越しに発表を聞くという形はどうしても馴染めません。そこで、ポスター発表者には決められた1時間だけポスターの前に待機していただき、参加者は興味のあるポスターに行って議論するという形にします。座長はなしですが、その領域の優れた先生に1時間の間に自由にポスターを見て回っていただき、適宜コメントしていただくようにしたいと考えております。

参加者の方の中には、「私はまだまだ議論するようなレベルに達していないので、達人の先生からむしろ教えていただきたい」という方もおられるでしょう。よって、企画は、大きく「研究」と「教育」に分かれます。研究は6つの会場（予定）で行い、教育は展示会場内の舞台で行います（学会本体が企画する教育企画は別です）。展示会場内であることを活かして、超音波診断装置の実機をなるべく多用して、活発な教育企画を企画中です（こちらは田中幸子先生、別府慎太郎先生の会でライブを担当した盟友林英宰先生に統括していただいています）。

経済状況はやや回復しつつあるかも知れませんが、議論の場に無駄は不要です。みながお酒を呑みながら意見を交換する懇親会は、全員が参加可能な形で、ただ1回だけ開催しますので時間のある方はご参加下さい（2日目の飛天の間）。これ以外は好きな仲間と自由にお過ごし下さい。

83回が成功裏に終了した今からさらに企画を練り上げていきます。場所は品川のグランドプリンスホテル新高輪です。ややこしい非対称な作りの東京フォーラムなどと違い、昔ながらの箱型のパミールという建物で1階から3階まで同じ形で、だだっ広くもありませんので、移動中に迷ったり時間がかかることもないと思います。日本のどこからでも、飛行機でも新幹線でも交通至便の地ですので、多くの会員のみなさんの参加を期待しております。

平成22年6月吉日

日本超音波医学会第84回学術集会 会長

東京大学医学部附属病院検査部

竹中 克

[▲ページトップへ戻](#)

る